

2014年1月19日開催
第8回シンポジウム 質問用紙記載の質問

増田先生あて

【質問】

講義の中で、脾臓リンパ節からのT細胞による刺激の話がありましたが、脾臓の摘出により免疫反応がかわる事はあるのでしょうか。極論かもしれませんが、予防的に幼少期に摘出してしまおうとか。先生の考えはいかがですか？

【回答】

リンパ節が残っていますので脾摘によって日常の免疫には大きな問題はないと思います（感染症に対しては、いわゆる免疫力が弱った状態かもしれませんが）。脾摘によって食物アレルギーを予防できるかどうかですが、100%でないにしてもその可能性はあると思います。逆に、制御性T細胞の出現がうまく行かずに、食物アレルギーを助長してしまうことも考えられます。

福田先生あて

【質問】

ランチョンセミナーの抄録で（下から10行目）「また乳酸菌が～大腸癌発症リスクを増大させる」とあるが、講演中では腸管のバリア機能を高め大腸癌を抑制するという話であった。リスクを「増大」で間違いないでしょうか？

【回答】

セミナーでは「酢酸」が腸管バリア機能を高め、細菌感染で生じる腸管上皮の細胞死を抑制するという話と、「酪酸」が制御性T細胞を誘導し、実験的に誘導した大腸炎を抑制するというお話をさせていただきました。乳酸菌が腸管内で産生する「乳酸」の効果については講演中は時間の関係で触れられませんでした。絶食後の再摂食時に大腸の腸管上皮細胞の過増殖を乳酸が促すことがわかり、その時同時に大腸がんを誘発する薬剤をマウスに作用させますと腫瘍形成頻度が増加しましたので、ある一側面としては乳酸が大腸がん発症リスクを増加させるとも言えるかと思えます。

【質問】

体に有用な有機物を産生する乳酸菌を腸内に定着させる事は困難なのでしょうか。2ヶ月ヨーグルトたべてもやめて2週間ですぐになくなってしまいう話があったので。

【回答】

市販のヨーグルトなどに含まれる乳酸菌を腸管内にずっと定着させるのは難しく、これは

もともとわれわれの腸内にはたくさんの腸内細菌が生息しており、そういったものとの競争に負けてしまったためのようです。

【質問】

犬では環境中（草などに付着している）酵母が腸内で住みついてしまい、下痢を起こしやすい気がしています。酵母についてはいかがでしょうか。何か情報があればお願いします（ヒトでも動物でも）。

【回答】

酵母については解析を実施したことがないので情報を持ち合わせておりませんが、腸内で検出されるウイルスについては網羅的に解析した報告がありますのでこちら（Nature, 466: 334-338, 2010）をご参照ください。

【質問】

ヒトの腸内細菌叢のエンテロタイプによって、罹患しやすい疾患はあるのでしょうか。

【回答】

2013 年までの報告では、エンテロタイプと疾患との明確な関係は見いだされていないようです。

【質問】

“種を超えて食習慣とエンテロタイプには関係がある可能性が示唆”とありますが、チンパンジー以外の動物種でも似たようなエンテロタイプにわけることができるのでしょうか。また、その場合 3 つのタイプではなく、1 or 2 あるいは、4 以上にわかれることもあるのでしょうか。（個人的には、他の動物種はヒト程、食物に傾りがないので、エンテロタイプも少ないと思うのですが…）

【回答】

エンテロタイプを分析した研究は現在のところヒトとチンパンジーしか報告はありません。ペット動物については確かに食事の偏りが少ないのでエンテロタイプがあるのかどうか（あるいはあっても 2 つくらいかもしれない）は分かりませんので、今後の研究課題かと思えます。

CIC

【質問】

前回もそうですが、ここまで話をもっていったら、仮としても IBD の定義を提示しても良いと思います。せっかく議論をしても学会の外に出なければ意味が薄いと思います。ホームページにアップしていただいても良いのでは？

【回答】

IBDの定義に関してコンセンサスが得られた部分は、学会誌や学会ホームページに掲載いたします。

[文責 増田]

あて名なし

【質問】

リンパ管拡張症はどの位置になりますか？

【回答】

リンパ管拡張症はいわゆる「現象」を捉えた疾患名でございます。CICでは深い議論はされませんでした。いわゆるIBDと呼ばれる腸炎の際に生じることがある現象（病変）の一つとして捉えていただいても良いと思います。

[文責 増田]